

平成 27 年度 社会福祉法人白翁会事業報告書

はじめに

平成 27 年度は、3 年に一度の報酬改定の年に当たり、基本報酬の大幅引下げが実施されるとともに、介護保険制度の改正により、特別養護老人ホームへの入所条件が介護度 3 以上に制限されるなど、事業者にとって非常に厳しい 1 年となった。同時に、一定以上の資産や所得のある利用者については 2 割負担等の見直しがされたことから、利用者・家族にとっても影響の大きなものとなった。

また、3 月末には、平成 29 年度の社会福祉法人制度改革の本格実施に向けて、経営のガバナンス、運営の透明性の確保、適正かつ公正な支出管理、地域における公益的な取組を実施する責務、内部留保の明確化と社会福祉事業等への再投下などを内容とした社会福祉法等の一部改正法案が可決成立したところである。

このような状況の中、平成 27 年度の白翁会の経営収支状況は、予想されたように、前年度に比べ極めて厳しいものとなった。収入については、新設加算の取得等により増収となった光陽荘を除き、特別養護老人ホーム等の介護保険事業において、介護報酬の大幅な引下げに加えて、入所者の高齢化等に伴う在所期間の短期化や入所までの調整日数の長期化、さらにはデイサービス等の通所事業の競争激化等による利用率の低下が影響して減収となったところであり、一方、支出については、支出の多くを占める人件費の定昇等による自然増と未払金計上の会計処理方法の変更等による一時的増が生じたことから、結果として事業活動資金収支差額は大幅な減額となった。このため、会計間の繰入金処理を行い、各施設等における資金の過不足を調整したところである。

上記の利用率低下の要因に加えて、現在、この地域では、各施設において入所基準である介護度 3 以上の対象者確保の困難性やサービス付高齢者住宅等の新規整備の影響もあって実質的な入所申込者数の減少が顕在化していることから、安定した施設運営を図るために、市内の他の施設と共催で「とくようフェア」のイベントを開催するとともに、入所相談会や施設見学会ツアーなどを計画・実施したところである。

特別養護老人ホームの施設整備計画については、市との協議を経て、施設整備予定地である市有地を借用することについて合意を得たところである。さらにクリアすべき課題は山積しているが、今後持続性のある効率的な施設運営を図るためには、施設の集約と規模の拡大が必要不可欠であるので、引続き、整備に向けての手続き等を慎重かつ確実に進めていくこととする。

以下、項を追って報告する。

1 法人運営に関する事項

(1) 理事会・評議員会の開催

①第1回定例評議員会 5月27日 ・出席者：評議員 20人 監事2人

・審議事項

平成26年度事業報告について・平成26年度決算について・契約事務細則の改正について
第1回定例理事会・出席者：理事 10人 監事2人

・審議事項

平成26年度事業報告について・平成26年度決算について・契約事務細則の改正について

②第2回定例評議員会 12月4日 ・出席者：評議員 20人 監事1人

・審議事項

平成27年度第1次資金収支補正予算書について・平成27年度上半期の施設運営及び財務状況等について等

第2回定例理事会 ・出席者：理事 9人 監事1人

・審議事項

平成27年度第1次資金収支補正予算書について・平成27年度上半期の施設運営及び財務状況等について等

③第3回定例評議員会 3月28日 ・出席者：評議員 18人 監事1人

・審議事項

平成27年度第2次資金収支補正予算書について・平成28年度事業計画について
平成28年度資金収支予算書について・職員就業規則の改正について
職員給与規程の改正について・平成28年度給食業務委託契約について
任期満了に伴う次期評議員の選任について

任期満了に伴う次期苦情解決第三者委員の選任について

指名（資格）委員会委員の選任について・施設長の人事について

・喜久の園入居申込者調査報告・特養フェア イベント実施報告等

第3回定例理事会 ・出席者：理事 9人 監事1人

・審議事項

平成27年度第2次資金収支補正予算書について・平成28年度事業計画について
平成28年度資金収支予算書について・職員就業規則の改正について
職員給与規程の改正について・平成28年度給食業務委託契約について
任期満了に伴う次期評議員の選任について

任期満了に伴う次期苦情解決第三者委員の選任について

指名（資格）委員会委員の選任について・設長の人事について

・喜久の園入居申込者調査報告 ・特養フェア イベント実施報告等

2 法人職員の研修

ケア技術や組織運営の向上のために、中堅職員を対象とした「介護福祉事業産学連携モデル開発事業」を静岡県立短期大学と協働・連携して実施した。また、この事業を活用して、介護・支援業務を行う上で最も基本となる理論と技術を習得するための法人本部主催による研修を実施した。

11/20・26 「排泄ケア：講師」：小池 一暢（参加職員：15名）

（内容） 排泄ケアについて・尿失禁のことについて・リスク管理について
オムツ・パッドの特徴を知る(体験)・排泄用品の種類

12/21 「リーダーシップ」：講師：松平准教授（参加職員：11名）

（内容） リーダーシップの発揮できる条件・リーダーシップとは？
グループワーク(ヴィジョンの木を作る)

1/26 「コミュニケーション」：講師：濱口 晋（参加職員：18名）

（内容） コミュニケーション技術・プロセスレコードを活用した研修
グループワーク(観察→伝達。プロセスレコード作成)

3 人材確保対策

平成28年度新規学卒者の採用計画については、前年度と同様、5名の採用枠を決定し、大学、専門学校及び地元高校等に対し求人活動を行った。結果として、応募者は3名であり、試験、面接のうえ、採用内示を行った。

こうした厳しい採用環境の中にあつて、各施設では年度中途において随時、ハローワーク、広告、知合い等を活用して必要な人員の確保に努めたところである。

良質な人材の確保は法人経営の要でもあるが、静岡県福祉人材センターの主催する「福祉の仕事就職フェア」への参加や、中学生を対象とする「キャリア学習会」での法人アピールなど、地道な広報活動による法人紹介を実施した。

4 職員の福利厚生

法人職員が育児を行いながら勤務を継続できるよう、市内NPO法人「かすみ草」との間で保育料助成の契約を交わし保育支援制度を実施している。（当年度利用職員数 7人・児童数 6人・必要経費 346千円）

5 感染症予防対策

これまでの発生状況を踏まえて、各施設、事業所において、感染症対策実施マニュアルの改訂版の作成等をはじめ、従来以上の予防対策を講じたところであるが、千寿の園において、インフルエンザが集団発症し、収益に少なからず影響した。

また、各地で発生したノロウイルスについては各施設ともに万全の予防措置を講じた結果、発生を防止することができた。

6 決算の状況

各施設・事業所の主たる収入である介護保険及び自立支援収入の状況をみると、光陽荘を除いて、各施設等とともに介護保険の改定により前年度に比べて収入が大きく減少しているが、合計では昨年をわずかではあるが上回った。

一方、支出の約7割を占める人件費については、事業に支障を生じない範囲で増加の抑制を図ったところである。施設別にみると、千寿の園においては、ほぼ昇給分の上昇率でコントロールされており、内田デイについては、育児休業終了に伴う職員の復帰に係る法人内での部門異動等で、来年度に向け準備を進めているところである。

さらに、経常収支では、他会計からの繰入金によって運営される本部を除き、各施設等ともに収入が支出を上回っているが、光陽荘を除き、収入の減少により収益幅は大きく減少している。なお、これらの経理内容については、5月18日、杉山明喜雄公認会計士事務所の監査を受けた。

① 4施設1事業所の事業活動と法人の主たる収入及び人件費の支出状況 (単位千円)

項目 年度	介護保険・障害者サービス		人件費支出		事業活動資金収支差額	
	27年度	26年度	27年度	26年度	27年度	26年度
千寿の園	308,245	314,928	230,958	225,316	-8,813	1,040
喜久の園	267,822	273,576	206,961	194,958	-6,220	7,358
内田デイ	77,129	77,685	51,952	52,328	5,921	6,992
光陽荘	352,628	348,067	209,731	198,936	58,419	72,113
計	1,005,824	1,014,256	699,602	671,538	49,307	87,503

注：拠点区分間繰入措置は行われなかったものとして記載した。

7 その他報告事項

- ・とくようフェア（小笠・菊川地区特別養護老人ホーム合同企画）

特別養護老人ホーム千寿の園を事務局として、小笠（和松会）・菊川地区の特別養護老人ホーム4施設による、特養についての施設紹介や記念講演を1月24日に開催した。記念講演では菊川市や菊川市社会福祉協議会・菊川小笠民生委員・菊川市包括支援センター等の協力も得て約180名の参加があった。また特別養護老人ホーム見学会についても8名の方の参加もあり、どの施設も参加者には好印象であった。